



「赤鬼」はなぜ泣いたのか？

校長 尾崎 淳一

ある山に、心の優しい赤鬼が住んでいました。人間と友達になりたかった赤鬼は、「優しい赤鬼の家です。どなたでもお入りください。おいしいお菓子とお茶がごございます。」と木の札に書き、家の前に立てました。しかし、赤鬼を怖がっていた人間は、誰一人として遊びには来ません。赤鬼はしだいに悲しくなり、悔しくなり、しまいには腹を立てて、せっかくの立て札も壊してしまいました。

赤鬼が何日も悲しみに暮れていると、友達の青鬼が訪ねてきました。赤鬼の話を聞いた青鬼は「よし、僕が人間の村で暴れ回るから、赤鬼さんは僕を思い切り懲らしめて。そうすれば、人間に君の優しさが伝わると思うよ」と提案し、赤鬼を引き連れて人間の村へと向かいました。

青鬼は村で大暴れをし、赤鬼は怖がる人間を懸命に助けました。作戦は大成功し、赤鬼の家には村の人間がどんどん遊びに来るようになりました。赤鬼の毎日は、とても充実したものになったのです。

しかし、赤鬼には気になることがありました。作戦の大成功から、友達の青鬼は一度も姿を見せません。心配になった赤鬼は、青鬼の家を訪ねることにしました。すると、青鬼の家はすっかり閉ざされており、壁には「赤鬼さん、人間と仲良く暮らしてください。もしも、僕と君が友達でいると、君がまた悪い鬼と思われてしまいます。だから、僕は旅に出ることにしました。きっと長い旅になりますが、赤鬼さんのことは忘れません。君と僕はいつまでも友達です。さようなら。青鬼より」という手紙が残されていました。赤鬼は黙ったまま何度も手紙を読むと、いつまでもいつまでも泣きました。

上に囲んだ文章は、名作『泣いた赤鬼』のあらすじです。絵本で読んだ竜北生もいることでしょう。私が特別支援学校で勤務して3年目、中学部3年生の担任のときの学芸会の劇に、この『泣いた赤鬼』を選びました。得意なことが少ない子どもたちでしたが、6人全員が仲の良いクラスでしたから、心温まる素敵な劇になったことを覚えています。



ところで、せっかく人間と仲良くなれたのに、なぜ赤鬼は泣いたのでしょうか。なぜ青鬼は長い旅に出なければならなかったのでしょうか。竜北生の皆さん、考えてみてください。

余談ですが、左の写真は「赤鬼」ではありませんよ。竜北中の文化祭に来場された、「USAのロックギタリスト」です。しかしながら、どうしても「赤鬼」にしか見えずに、私こそ泣きそうになっています……。リアル版「泣いた赤鬼」です……。

さて、明日12月4日（木）から12月10日（水）までの1週間は、「第77回人権週間」と定められています。詳細は法務省のホームページに掲載されています。竜北中学校でも人権講演会を開催するなど、この機会に改めて人権について考えていきます。「誰かのこと、じゃなく」、「自分のこと」「友達のこと」「周りのみんなのこと」として課題を見つめ、竜北生全員が人権に守られ、明るく楽しく「竜北ライフ」を満喫できる竜北中学校を創りたいです。各学級の「マイクラス人権宣言」を振り返ってみるのも効果的です。



話を戻しますが、『泣いた赤鬼』は読み手に何を伝えたかったのでしょうか。答えは一つではないかも知れません。この人権週間に、自分だけの正解を見つけてみてください。自分に優しく、周りにも優しい竜北中学校を目指して、「竜北生、Go!!」

3年生は、進路決定の時期となりました。保護者の皆様には、三者懇談会へのご出席に感謝いたします。竜北3年生は素敵な生徒ばかりです。一人一人の「よさ」「得意なこと」を生かし、三年間頑張れる進路選択に向けて、学校も全力でサポートしてまいります。

（令和7年12月3日）